

栃木県

宇都宮大学 ～農村の中にある拠点“里山キャンパス益子家（ましこや）”～

● 拠点づくりのきっかけ

- ・農学部農業経済学科の西山教授が、学生と向き合う中で「学生が自分と向き合い、自分らしさを見つける機会をつくらなくては」と感じたのが始まり。
- ・他方「我が国の食の課題は誰が解決するのか？」に向き合うための実践経験が足りないとも感じていた。

● 空き家の改修と棚田再生

- ・令和4年、拠点づくりの第一歩として、数十年間空き家だった建物の改修に着手。約2年をかけて完成。
- ・令和5年、耕作放棄されていた棚田を再生し、宇都宮大学開発の「ゆうだい21」を無農薬で栽培開始。
- ・令和6年、棚田オーナー制の導入と、農家の協力も得て水稻の面積を広げ、約40万円の収益。

<見逃せないポイント>

- ・益子家の場所は、大学から車で40分と程よく、西山教授も近くに住んでいて、地域との連携に適していた。
- ・栃木県の補助金（約100万円×3年）を活用し、初期投資の負担を軽減して早期のスケールアップを実現。

空き家の改修からすべてが始まった学生たちのリアルな挑戦



人が集い、やってみたいが叶う農が育む自然、それが益子家



● 山林整備、地域食堂への展開

- ・産廃置き場になる危機に瀕していた山を、クラウドファンディングで取得し、整備を通じて再生。
- ・益子家の恵みと地域の“おすそ分け”を持ち寄って、皆で調理する「食の居場所＝地域食堂」の開設。

● 活動の成果

- ・大学の講義とは異なり、学生自身が新分野に挑戦し、提案から実行まで主体的に取り組む姿勢が出ている。
- ・学生の中には、大学卒業後に、地域おこし協力隊としての農業研修を経て、新規就農に至った者もいる。

● 今後の展望

- ・トップダウン型からの脱却を図り、大学1年生から積極的に新たな分野に挑むプロジェクト型への進化。
- ・大学OBOG、企業、都市住民など、地域内外との関わりを深め、農村関係人口を増やす。

● 詳しい情報はこちら（益子家 Instagram）

日々の活動やお知らせを配信中。フォローよろしくお願いします！

興味がありましたら、いつでもお気軽にご参加ください！



山の資源を活かし、未来へつなぐ持続可能な森づくり



集まり、動き、語り、味わう
益子家から広がる人のつながり



★ 概要 ★

拠点開設：令和4年 活動分野：棚田再生、山林整備、地域食堂、その他

メンバー：約20名（1年～4年） 問合せ先：西山ゼミ nofanofu.mashiko@gmail.com